

園だより

2024年5月号
2024年5月1日発行

子どもの目線で

風薫る5月です。進級児は新しい環境と先生になじみ、新入園児も慣れる保育がようやく終わりの頃に、園では感染症（溶連菌やRSウイルス）が流行しました。せっかく慣れたのに、発熱や咳でお休みとなるお子さんが目立ち、保護者の方々にはさぞかし心を痛めたことでしょう。けれども“病気はかかりながら免疫を獲得して、抵抗力を身につけていくもの”ですので、成長のみちすじと覚えて乗り越えていきましょう。

さて、年々猛暑の日本では夏の屋外は危険レベルですから、5月の今が外遊びが安心して楽しめる時です。風や雲や空をみあげて、こいのぼりをさがしてみたり、お散歩に行ったり公園に出かけてみましょう。

私も孫と過ごす時は、たいてい近所で2～3か所の公園めぐりをします。帽子、水筒、虫よけに砂場セットをもって、水遊びができるなら着替えも。そして、子どもと一緒に蟻の巣をのぞき込んだり、獲物を運ぶ様子を追いかけたり、ダンゴムシを集めたり。ひとしきり“子ども目線”で子どもが見つめる先と一緒に追いかけて。子どもの「なんだろう?」「触ってみたい」「やってみたい」をかなえてあげてください。大人目線だと“転ばぬ先の杖”で、先回りして失敗しないようにしつつ手出し口出ししてしまいがちです。やってみて転んで失敗して、時には痛い思いをして身につくことがたくさんあるのです。失敗をとおして「次はこうしてみよう」と考え、試行錯誤しながら身のまわりの世界を獲得していくのです。

子ども時間に付き合うことは、仕事と子育てで目まぐるしく過ぎる日々ではなかなか難しいでしょうが、週末や連休などゆとりのある時間には、子どもの目線の先をゆっくりと一緒に追いかけてみてはいかがでしょう。懐かしい子どもの頃の記憶がよみがえるかもしれませんね。

園長 三幣典子

『主は私の牧者であって、わたしには乏しいことがない。

主は私を緑の牧場に伏させ、いこいのみぎわに伴われる』

(詩編 23 篇 1～2 節 旧約聖書)